

＜学校の教育目標＞ **豊かな心を持ち、心身ともにたくましい子の育成**
 自らを鍛える子 自ら求める子 自他を愛する子

＜学校の研究主題＞ **自ら学び、共に生きる子の育成**
 ～一人一人に力をつける「指導と評価の一体化」の具現化～

＜令和6年度までの成果と課題＞

- 単元終末の活動に「海外の小学生とのオンライン交流」を位置付けたことで、言語活動の目的や場面、状況などをより明確にすることができ、本物のコミュニケーションの意義や楽しさを実感させることができた。
- 自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤する場面の設定、学びの自覚と次時の学びへ向かう意識を高める評価の在り方を考えていきたい。

＜願う児童の姿＞

- 日本語と外国語の違いを理解し、コミュニケーションにおいて他者に配慮しながら外国語を主体的に活用する姿
- コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、自分の考えや気持ちなどを粘り強く伝え合う姿
- 自らの学習状況を把握し、学習の進め方を試行錯誤しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする姿

＜外国語科の研究主題＞
「できた・わかった」を実感しながら、コミュニケーションに挑み続ける子
 ～学習到達目標の到達を実感させる「指導と評価の一体化」を通して～

＜研究仮説＞

学習到達目標を明確にした単元を構想したうえで、以下の①～④を行えば、研究主題を具現する児童が育成できると考える。

- ① Unit Goal に向けた必然性のある言語活動の仕組み方を工夫する。
- ② 子ども自らが自己調整しながら学習課題に粘り強く取り組めるように中間指導の在り方を工夫する。
- ③ 学習到達目標の到達を実感させるための評価の在り方を工夫する。
- ④ 指導と評価の一体化を踏まえ、随時授業改善を図るようにする。

研究内容 1 【単元構想】授業前の工夫	研究内容 2 【学習活動】授業中の工夫	研究内容 3 【評価】授業後の工夫
(1) 単元を通した必然性のある言語活動の工夫 (2) 授業改善につなげる単元構成の工夫	(1) 自ら自己調整しながら学習課題に粘り強く取り組むための指導方法の工夫	(1) 教師の授業改善と適切な評価方法
具体的な方途や求める姿		
○学習到達目標につながる単元の構想(記録に残す評価・見届けの視点) ○目的・場面・状況を明確にした言語活動を通して働かせたい見方・考え方の設定(資質・能力)	○ICTなどを有効活用して、表現内容を再構築する姿 ○学びを愉しみ、自分の考えや気持ちなどを粘り強く伝え合う姿 ○自己の学びを振り返り、Unit Goalに向けて自己調整しようとする姿	○学習到達目標や単元構想を基にした授業計画の再構成 ○ICTを有効活用した学習者の学びの見届けと評価、授業者の指導改善

【太田小が求める自ら学ぶ子】

① **こだわる (自律性)** ② **かかわる (関係性)** ③ **つくる (本質性)** ④ **みつめる (客観性)**